

国府小学校学校だより

2020年6月30日発行 第3号

こくふっこ

〒942-0081 上越市五智4-1-10

TEL 543-2484 FAX 543-3541

<http://www.kokufu.jorn.ed.jp/>

【教育目標】人間性豊かな たくましい子ども

【重点目標】ともに学び ともに歩み ともに伸びる子



覚えることと忘れること…記憶するということは

校長 太田 敬祐

◆コロナ禍のため、都会の小学校では家庭でのワークシート学習やオンライン学習が続いていた時期がありました。そんな中で学校が再開します。私は順調に学校が始まってよかったねと知人に連絡しました。ところがその知人は「やっぱり、学校の授業は大切なんだということを実感した」と言っていました。あれだけ一所懸命に学習の準備をして臨んだのに、子どもたちに学習したことが身につけていないと言うのです。

◆皆さんも経験があるかもしれませんが、私が過ごした中学校では、毎日授業の初めに「5分間ミニテスト」というのがありました。国語、社会、数学、理科、英語の主要5教科は全部あったような気がします。だいたい10問くらいの簡単なテストでした。

毎日の「5分間ミニテスト」。しかし、これが知的理解に役立っていたようです。全校300人の各学年3クラスのいなかの中学校でしたが、共通学力テストは常に市内で1番目～3番目くらいでした。

◆私が好きな精神科医で作家である樺沢紫苑さんの「覚えられない記憶術」P63に次の記述があります。

ドイツの心理学者、エビングハウスが行った記憶実験で、記憶した20分後には習ったことの42%を忘れ、1時間後には56%を忘れ、1日後には74%を忘れることが明らかにされました。記憶というのは、時間とともに猛烈なスピードで忘却されていくのです。これを防ぐ方法が「復習」です。

その復習の目安が、情報の入力から1週間で3回のアウトプットなのだという事です。そうすると長期記憶として残りやすくなるといいます。そして、「137記憶術」ということを提唱されています。

「1日後、3日後、7日後」という3回にわたって復習すると、ほぼ記憶できます。そして、30日後に、本当に覚えているかどうか再チェックするイメージです。

◆昔の教師がこのようなエビデンス（根拠）を意識していたかどうかは分かりませんが、経験的に復習が大切であり、そのために5分間ミニテストを各教科で実施していたのだと考えられます。ワークシート学習やオンライン学習ではインプットが主になりがちです。でも、それだけでは子どもたちはせっかく学習したことを忘れてしまうのです。

◆授業というのは新しいことを学ぶインプットだけでなく、折に触れて習ったことを復習したり、習ったことをもとに自分の考えを構築していくアウトプットの間でもあります。授業の中で少しずつ習ったこと覚えたことを確認していく、友達に自分の考えを伝え学び合う。このようなアウトプットがあるからこそ、記憶として定着していくのだということが、今回のコロナ禍の中でも再確認できます。

◆学校が通常再開をして一ヶ月以上が経過しています。アウトプットを大事にしなが、日々の授業を進めていきます。